

対談 「長銀破綻の教訓」



MISコンサルティング株式会社
代表取締役

鷲見 守康 氏



Bank of Japan



長銀が破綻したのはなぜか。どうすれば破綻は防げたのか。

- 破綻前(1990年代後半)、長銀は、最新のリスク計量化技術(内部 格付、VaRなど)を導入するなど、金融界では一目置かれる存在であった。
- バブル期(1980年代後半)に、長銀が過大なリスクテイクを見過ごしたのはなぜか。
- バブル崩壊後(1990年代前半)、リスクは顕在化していたはずであるが、そのとき、何をすべきであったのか。
- 正しい判断、正しい実践ができなかったのはなぜか。
- どうすれば破綻は防げたのか。
- 独立取締役の果たすべき役割・機能は何か。
(当時、独立取締役がいたら、何をすべきであったか)

バブル崩壊から金融危機へ

1990年 バブル崩壊 株価急落、不動産価格下落

1997年 三洋証券 経営破綻(会社更生法適用、コール市場でデフォルト)

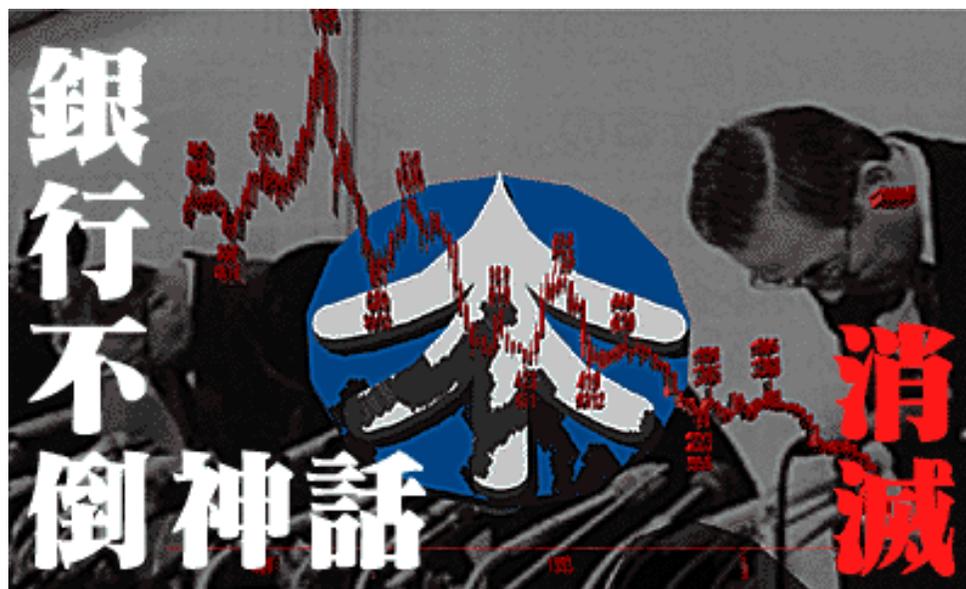
北海道拓殖銀行 経営破綻

山一証券 経営破綻(自主廃業)

1998年 日本長期信用銀行 経営破綻(国有化)

日本債券信用銀行 経営破綻(国有化)

金融機関の経営破綻、預金取り付けが全国に広がる。

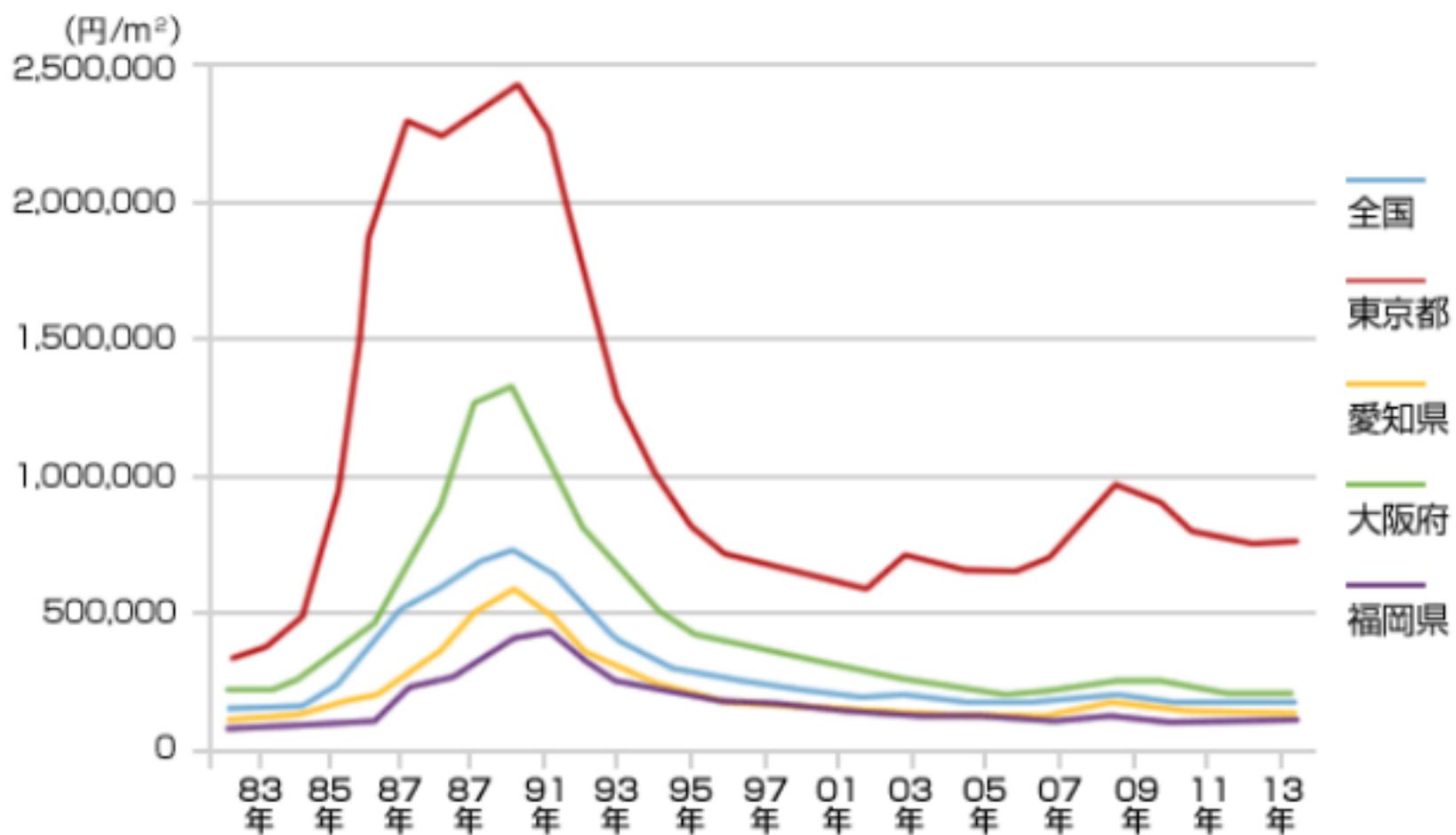


日経平均株価の推移(年次)

1980～2014年の日経平均株価の推移(12月の終値)。



■ 図1 地価公示の推移（4大都市）



(国土交通省「地価公示」より作成)